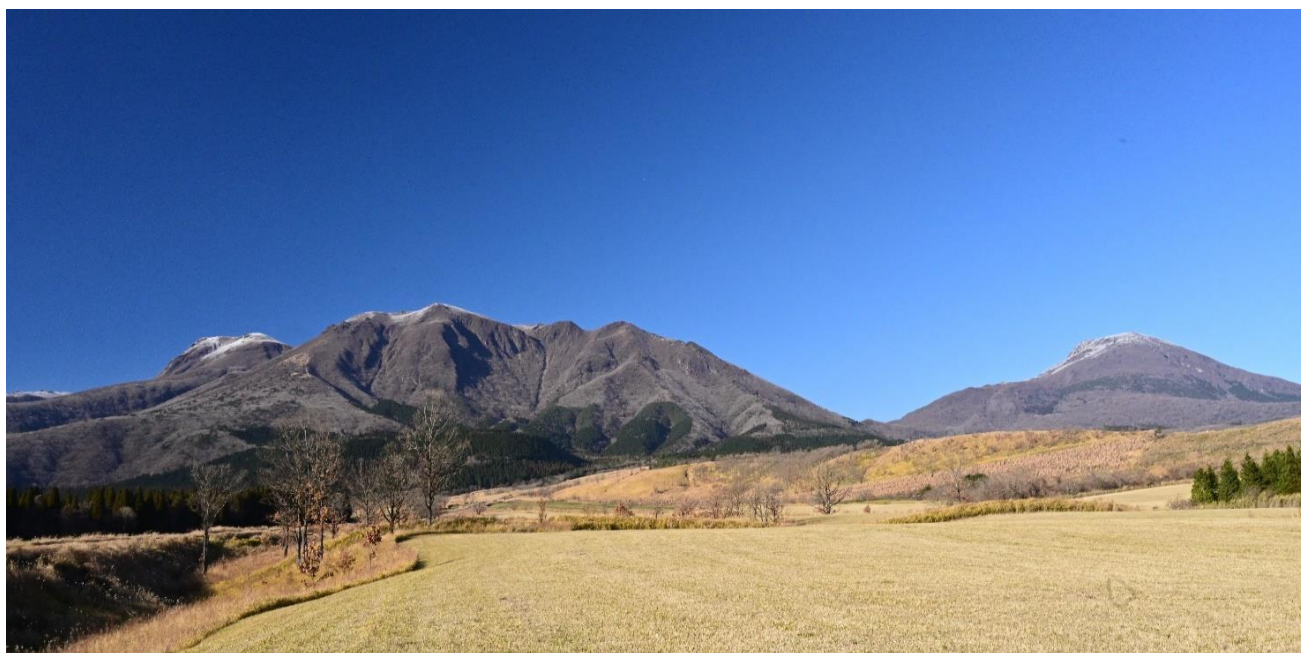




熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部



冬の久住高原（遠景は左より久住山・稲星山・大船山）

目次	ページ
1 山岳ファーストエイド講習会 実施報告	支部長 土井 理 ②
2 秋の例会 「大船山登山報告」	中村 寛 ③
3 宮崎ウエストン祭参加報告	事務局 山本 直 ⑦
4 里山低山クラブ 「菊池溪谷」 報告	池田清志 ⑧
5 例会（高千穂峰）登山報告書	山本 直 ⑧
6 千支の山 虎石山（400.1m） 報告	戸上貴雄 ⑩
7 里山低山クラブ ～史跡に富む山～「八丁山」報告書	池田清志 ⑪
8 古道調査「阿蘇カルデラ外輪山越えの峠道」 (駒返し峠～稲生野)途中報告と今後	池田清志 ⑫
9 JAC 熊本支部古道調査プロジェクト中間経過報告	三宅厚雄 ⑭
10 森林保全巡視報告書提出状況	田北芳博 ⑯
11 会員の異動	事務局 山本 直 ⑯

1 山岳ファーストエイド講習会 実施報告 支部長 土井 理

2022 年 10 月 16 日 天候：晴れ→曇り

阿蘇くじゅうユースホテルにて開催する事が出来ました。シェルパの阿南誠志会長のご厚意にて施設を使用させて頂き開催する事となりました。

参加者：石井、安場、中林、田北、城戸、千々岩、山本、中村、浦川、 講師：土井

前日の九重での仕事の関係上、土井はユースホテルにテント泊ってしておりました。

10:00 には参加者全員集合し、ユースホテルの食堂をお借りし、座学講義より開始いたしました。講義は、

①登山におけるアクシデントの救急対処法 SSSABCDE、②熱中症と脱水、
③高所関連疾患、④落雷、⑤心疾患、⑥脳疾患、⑦低体温症、⑧その他
を 12:00 少し過ぎまで行いました。

12:50 より、外の芝地を使用させて頂き、まず 2 人ペアになって頂き、シナリオトレーニングを開始しました。終盤には 3 人グループでの対応を行っていただきました。

外傷症例、骨折症例、熱中症症例、高山病症例、低体温症例、脳疾患症例、低血糖症例、アレルギー症例 等 種々のシナリオを繰り返し対処して頂きました。

傷病者役の方にこの様にふるまって下さい、痛がってください等のシナリオを記憶し振舞って頂き、対処者の方が、診て、触って、どの様な怪我なのか、どの様な病気なのかを見つけて対処する。必要に応じて救助要請すると言ったシナリオを繰り返し行いました。

2 人でのシナリオや対応は何とかできましたが、グループとしての登山隊としての対応は時間が無く役割分担等の詳細な講習までは行う事はできませんでした。

終了時刻 16:00 には、雨の予報でしたが何とかもって天候は曇りとなっていました。

登山で何か発生した時の対応として身につけて頂ければと思います。充実させるためには、準備をもっと確実にできる様に反省しているところです。



傷病者役の方にシナリオをお伝えしているところ





傷病者役の方の怪我や病気の熱演



対処者の方が傷病者を診ているところ



症例のまとめの話をしているところ



最後の集合写真

2 秋の例会「大船山登山」

中村 寛

日時 令和4年10月23日(日)

参加者 26名

1班 山本直、森尾奈美、内布陽子、池田のり子、池田清志、末永保則、宇都宮信夫、
前田節子、増田修一 9名(敬称略)

2班 松本博美、坂本雄二、原田成治、宮本恵、川上春枝、中林輝幸、中村寛
7名(敬称略)

3班 土井理、田北芳博、城戸邦晴、松尾重勝、吉本芳之、森美代子、石井文雄、
本田敦子、赤星隆弘、村上弘明、 10名(敬称略)

久しぶりの例会、しかもアンケートで希望が多かった大船山登山、沢山の皆さんの参加ありがとうございました。頂上直下の御池の紅葉を楽しんで頂けたと思います。

くじゅうの山開きは6月の最初の日曜日に久住山と大船山とで毎年交代で行われ、頂上では神事が行われます。多くの登山者が信じられないくらい集まります。つまり、くじゅうの西の盟主が久住山なら、東の盟主は大船山といえるでしょう。

今回は竹田市の有氏(ありうじ)から池窪登山口まで登山バスを利用して最短90分で登れるコースを案内しました。登山バスはコロナ禍の為、マイクロバスは通常12名を6名の2台。3回往復の為

3 班に分かれての登山になりました。一般車両が通行禁止されている道を片道 20 分で登山口に着きます。

1 班は菊池グラウンドを 6 時出発、2 班は 7 時出発、3 班は 7 時半（名目）出発と各班で行動時間は異なりましたが、この記録ではコースタイムは 2 班のものを記載しています。

7 時 0 分 菊池グラウンド集合、出発

8 時 30 分 竹田市有氏のパルクラブに到着後、バス出発。

8 時 50 分 池窪登山口着 10 分後に各自準備運動の後、出発。



1 班 池窪登山口です。これから登山です。

1 班は朝早く、6 時に菊池発でした。



2 班 中山公廟（元岡藩藩主）です。

整備された霊廟に紅葉が映えてました。

9 時 30 分 鳥居窪着 以前、大船山頂上には大嶽神社があり、その名のとおりにここには鳥居がありました。ここで少し長めの休憩をとる。少し開けた先には大船山の肩が大きく見える。これから登りになり急傾斜が増えてくる。落ち葉の中、休憩取りながら登った。朝方あったガスもこの頃頂上には消えていました。



1 班 鳥居窪より大船山山頂を背景に集合写真

11 時 大船山頂上

ミヤマキリシマに袖を引っ張られ、行く手を妨げられ、そこを抜けると鞍部にでた。もうガスは消えていて、頂上には沢山の人が見える。先ずはすぐ下の御池の紅葉を見に行った。ここも沢山の人がいてスマホやカメラで撮影していた。雑誌等でよく見る光景がここにある。皆さんを案内したかった所です。暫く光景を楽しんだ後、頂上に登った。頂上では写真撮影するのに順番待ちができていた。私達も並んだ。眺めは素晴らしく眼下には坊がつるや法華院山荘が見える。またここからはくじゅうのすべての山、久住、星生、三俣、中岳、白口、稲星、平治、鳴子、少し奥には涌蓋山、後ろには黒岳が見える。紅葉も旬で頂上から段原までの西側の斜面は感動ものでした。坊がつるからは沢山の人が登ってくる。ある程度堪能したら鞍部まで降りて食事をした。バスの時間にはまだ余裕があるので、私達は御池の対岸の岩に登ることにした。少し危険な岩場ですが登り、写真を撮り直ぐに降りました。御池からの撮影の迷惑になるからです。私たちではありませんが、クレームを言われた人もいたようです。



2 班 大船山頂上から。上左は御池の対岸の岩の上から撮りました。

13 時 35 分 鳥居窪着

下山を始めて 1 時間で鳥居窪に着いた。すぐそばに入山公廟がある。ここも見て欲しいので時間調整で計画に入れていた。元岡藩(竹田市)の藩主のお墓がある。竹田市の広報では日本一高い場所にある殿様のお墓ということです。この殿様は中川清久といますが、隠居後「入山」と名乗った位ですから、私たちと同じ山が好きだったのでしょう。ただ足が弱く今でいうキャリーバッグの様な物を家来に持たせて登ったようです。当時で 8 時間程掛かって登ったようです。きっとこの鳥居窪の境内で泊まったのでしょう。案内板には入山公は目が大きくあごは細くデフォルメされていて、カマキリのようなキャラクターに描かれている。いつ見ても可笑しい。ここからは阿蘇五岳や祖母山系が望めます。私たちが登っている山を入山公はここでどんな想いで眺めたのだろうか？ 先の地震や台風で大きな被害がでていましたが、直ぐに修復されています。



3 班、紅葉した大船山の頂上すぐ下の鞍部です。右下の御池には沢山の人が、写真を撮っていました。健脚組の中には北大船山まで足を伸ばした方もおられました。

14 時 35 分 池窪登山口着 時間より早く着いたので、人数確認後バスは直ぐに出ました。

15 時 バス停前には、大地の湯がある。古風で少し濁りのある温泉で疲れをとり今日の登山は終わりました。

※ほとんど全員が下山後、大地の湯に入浴したと思います。帰路も各班、別行動で帰着しました。

3 班の菊池グランドへの到着時刻はすでに暗くなっていました。

*有氏からの登山バス利用について

竹田市のホームページか、たけ旅で、登山バスを検索してください。参加者全員の〒、住所、名前、TEL。また申込者の口座番号が必要です。また変更がある場合、一度キャンセルして、再度申込みになります。少し面倒です。冬の運行はありません。

3 宮崎ウエストン祭参加報告

事務局 山本 直

1.期日

令和4年11月3日(木)

2.場所

高千穂町五ヶ所三秀台

3.参加者(敬称略)5名

松本 博美 松本 莞爾 三宅 厚雄 中村 寛 山本 直

他に日本山岳会副会長はじめ他32名 計37名の参加であった

3.内容

従来、高千穂町との共催で実施されていたが、今回は山岳会参加者のみの開催となった。

抜群の天気で、三秀台から青空と紅葉の中に祖母山が良く見える。

予定を少し早めて10:30開式。顕彰式主催者挨拶、東九州支部による点鐘、詩の朗読、合唱等あり1時間余りで終了。特に、宮崎支部長による、宮崎ウエストン祭開催の経緯や、田上敏行氏によるウエストンが上高地から槍ヶ岳に登る(1892年)前に1890年に阿蘇山(その時、金峰山にも登っている)祖母山に登っていることなど講演があり、知らなかったことも多く参考になった。

顕彰式が終わって、場所を変え参加者全員で懇親会となり、親しく懇談し14時終了した。

以上



4 里山低山クラブ 「菊池溪谷」 報告

池田 清志

1. 期日 令和4年(2022)11月11日(金)
2. 場所 菊池溪谷一帯
3. 集合 8:00 第1駐車場集合 (7:30に戸上・中林・池田が集合してドカンに2台デポ、7:45に第1駐車場に戻る。) 2人がラッシュに遭い、出発が少し遅れる。
4. 行程 8:45 第1駐車場出発、～右岸～広河原～12:00 清水谷橋で昼食
12:30～兜岩方面へ約1km～尾根筋～14:30 ドカン駐車場～14:45 第1駐車場、15:00 解散
5. 参加費 なし、ただし、第1駐車場代(普通車200円)、菊池溪谷入場料(一人200円)
6. 参加者 7名(呼称略：松尾、廣永、中林、石井、戸上、本田、池田)
7. 活動データ タイム5:53、距離9.0km、上り642m、下り115m



5 例会（高千穂峰）登山報告書

山本 直

1. 期日
令和4年11月20日(日)
2. 場所
高千穂峰
3. 参加費
3,000円
4. 参加者(敬称略) 12名
原田 成治 田北 芳博 橋本 悦子 山本 直 土井 理 岩下 律雄
森尾 奈美 前田 節子 本田 敦子 中村 寛 坂本 雄二 吉本 芳之
5. 日程
(行き)

南区役所 7:10⇒松橋 I C⇒山江 P A⇒えびの I C⇒9:30 高千穂河原
(登山) ユックリ組の場合

高千穂河原 9:40→11:00 御鉢→12:00 頂上(昼食) 12:40→14:45 高千穂河原
(帰り)

高千穂河原 15:15⇒16:30 山江 P A⇒17:30 南区役所

6.概要

もともと、会員のみを対象とした例会を本年度から開催し、5月に最初の例会としてアンケートにより希望が多かった霧島山系の高千穂峰を計画した。しかしながら天気が悪くやむなく中止した経緯がある。役員の中から、高千穂峰を秋に実施してはとの意見がでて、急遽11月20日の開催となった。

前日まで微妙な天気で、担当して実施すべきか迷ったところであったが、なんとか実施することができた。

登山口の高千穂河原は薄曇り、麓から高千穂峰がうっすらと見える程度で、御鉢の縁も完全にガスの中で全く見えない。古宮跡に参拝して歩き始める。ここで、健脚組には後を待たず先行して貰うこととする。遊歩道を過ぎてガレ場を登り始めるころ、霧が一旦晴れて、一時桜島やら開聞岳が見える。何度も休憩を取りながら、御鉢の火口壁に立つと、またガスがはれ、御鉢の底が良く見える。季節外れのミヤマキリシマの花が数輪。ここでまたガスが出てきたが、御鉢の馬ノ背と言われる火口縁を半周して鞍部を下り、今度は階段状に整備された登山道を登ると頂上に天の逆鉾が刺さっている高千穂峰頂上に着いた。いままでがうその様ガスが晴れ、360度のパノラマが広がる。これまで、ユックリ組は2時間半。健脚組はとうの昔に昼食を済ませ1時間以上待って貰った。記念写真を撮り、健脚組には先に下って貰うこととした。ユックリ組は40分の昼食休憩の後下山。登り以上にユックリで登山口へ到着した。





6 千支の山 虎石山 (400.1m) 報告

戸上 貴雄

2022(令 04). 11. 27 (日) 池田清志・城戸邦晴・田北芳博・戸上貴雄・松尾重勝・三宅厚雄・森尾奈美・山本直

8:50「道の駅竜北」7名集合～8:50「道の駅芦北デコポン」で休憩、三宅が加わる～虎石山登山口（県道270号）に到着、**9:46**出発～**10:03**322mピーク～**10:34**虎石山山頂**10:53**～442mピーク近くを通過～**11:50**尾根上に約25m続く大石～**12:01**林道（昼食）**12:29**林道を北上～**13:33**伐採地最上部から伐採地を下降～**13:42**県道に降り立つ～県道を西へ～**13:57**出発地登山口へ到着

下見で訪れた時よりも人工林が伐り払われ、接する自然林との境界部分も整備されており、虎石山山頂まで、この境界（ネット脇）を歩く部分が結構長く、ある意味歩き易かった。

虎石山山頂から先は確たる踏み跡もなく、スマホのGPSを頼りに見通しのない平坦な尾根を進むが、特に危険な断崖などは皆無であるから、殆ど不安なく歩くことが出来る。

25mほど累々と続く大石の横を通過すると、10分ほどで無舗装林道に出る。

ここから1時間ほど林道を北へ道なりに進み、最後は伐採地を強引に下降して県道へ降り立った。

ここ虎石山を含め八代海に面する山地には、陰樹と思しきミミズバイ（ハイノキ科）が樹林帯に多く生立しているが、伐採地跡の日当たりのよい斜面・道路沿いには、陽樹と思しきオオアブラギリ（トウダイグサ科）が群生化しつつあって、私にはその対比が面白く感じられた。



7 里山低山クラブ ～史跡に富む山～「八丁山」報告書 池田清志

1. 期日 令和4年12月10日(土)
2. 場所 八丁山一帯(八代市妙見町・古麓町)
3. 集合 9:00「道の駅竜北」集合6名で乗り合 わせ、9:30「ホタルの里公園」3名と合流
4. 行程 9:45 出発～懐良親王御陵・悟真寺・春光寺ほか～古麓城跡～11:50 八丁山 376m(昼食)12:30～上宮跡～上宮越～子安観音～「ホタルの里公園」15:50 着、



※健脚組は八丁山から先行して八峰山 574m まで往復、「ホタルの里公園」16:50 着、

5. 参加費 100 円(乗り合わせた人は 200 円)

6. 参加者 9 名(呼称略：前田、山本、川上、本田、三宅、中林、田北、戸上、池田)

7. 活動データ： タイム 約 7:00、距離 約 10 km、標高差 約 770m



8 古道調査「阿蘇カルデラ外輪山越えの峠道」

池田清志

(駒返し峠～稲生野)途中報告と今後

はじめに

阿蘇カルデラ外輪山越えの峠道は数多くあれども、山岳ルートとして親しまれている峠道は南阿蘇外輪山に多い。今回、なぜ駒返し峠ルートを調査するのかは次のような歴史があるから。

一つは阿蘇氏が一の宮町の阿蘇神社から南郷の館、さらに矢部町の浜の館へと勢力を広げた時代(鎌倉～室町)に往還があったこと。二つ目は近世～近代まで山都町(矢部町)側の人々は阿蘇火口や阿蘇山上神社参りのため、峠道「あそみち」と呼ぶ往還を通ったこと。なかでも駒返し峠はその幹道としてにぎわう峠道であったこと。などの点で駒返し峠ルートを本調査の中心に据えた次第です。

今年度のこれまでの駒返し峠ルートの下見調査

1 下見第 1 回(11/6、8:00～17:10) 参加 3 名(三宅、中林、池田)

ルート・範囲： 東大矢～御所塚～林道～駒返し峠～東大矢

成果：東大矢の営林署跡や九州自然歩道の確認、御所塚の発見、



東大矢の林道終点



東大矢の山の神

2 下見第2回(11/22、8:00～15:05)参加4名(三宅、中林、戸上、池田)

ルート・範囲： 稲生野(舗装路終点)～林道まで往復

成果：九州自然歩道より下の尾根筋ルートの確認。
(最後の1kmをやり残す)

3 下見第3回(12/12、7:00～15:00) 参加4名(中林、石井、戸上、池田)

ルート・範囲： 稲生野(舗装路終点)～林道まで往復

成果：前回、やり残した1kmを通過し確認できたこと。古道と思われる跡を所々、確認。

問題点：笹や竹に覆われた完全な“ヤブ”が数十メートルありこの整備が必要。

※ 3回の下見で稲生野～駒返し峠の古道「あそみち」と思われる幹道の特定ができた。

※ 今後は本調査を3月下旬に設定し、実施したい。

本調査は支部会員・会友に呼びかけ、多くの参加を得たいが、必要最小限の人数は確保して実施したい。
支部行事や三宅先生の「阿蘇修験者の道」の計画と調整のうえ実施する。

返し峠から内側(カルデラ内)のルートの下見は令和5年中に数回の下見と本調査1回を行い、「調査ノート」を作る。

※ 提案：本調査予定 令和5年3月11日(土)、予備日3月18日(土)、参加希望調査は2月中に実施。



御所塚の石碑「景行天皇の御陵」



自然歩道と林道の交点



ルート上の倒木を切る



御所塚の上で集合写真

9 JAC 熊本支部古道調査プロジェクト中間経過報告

令和5年1月6日 三宅 厚 雄

はじめに

令和4年度の熊本支部の総会を経て、新年度行事が始まり、東京本部から120周年記念誌発刊に際し、熊本支部割り当て、山岳古道「椎葉村を巡る古道：向霧立越」に続き、第2次古道調査の発表があり、支部推薦の古道「阿蘇山岳信仰古道」も全国古道調査対象となり、昨年4月より本腰を入れることになりました。早速、project team(以下 PT)を立ち上げ、阿蘇山岳信仰の修験道の古道を主に、メンバーの協議と行動の下で文献資料収集、聞き取り調査、現地調査等年末まで活動を重ねてきました。以下、写真を添えてこれまでの主な取り組み状況と今後の予定をお知らせ致します。

経過報告、今後の予定 ※PT 定例会（毎月第1月曜）、オンライン会議（毎月第2月曜日夜、小活動、矢部往還古道調査（別紙報告）は除いております。

月 日	内 容	場 所	参 加 者
令和4年 6月12日	第1回 PT 会議 初会議顔合わせ(立ち上げ) 今後の予定の取り組み等協議	道の駅大津	城戸、田北、池田、中林、宇都宮、三宅
8月12日	現地(麓坊中～古坊中)古道を案内してもらう	黒川牧野道(往生岳側道)	阿蘇市振興会会長(竹原氏)、三宅
8月27日	夏目漱石「二百十日の道」見学会研修会参加	阿蘇内牧界限	城戸、松尾、田北、三宅
9月12日	PT による初回古道現地調査	黒川牧野道(往生岳側道)	城戸、田北、中林、池田、三宅
11月12日	夏目漱石の足取りジオパークツアー参加	阿蘇神社、極楽寺、藤谷神社、牧野道、漱石文学遭難碑	城戸、中林、宇都宮、三宅
11月14日	郷土史家児玉史郎氏より聞き取り調査	阿蘇草原保全管理センター	城戸、中林、池田、田北、三宅
11月24日	田上敏行氏より聞き取り調査	ガストー南熊本店	池田、三宅
令和5年 1月16日	新年初定例会議(予定)	道の駅大津	PT
令和5年 3月中()	阿蘇神社から山頂上宮までの古道調査(予定) ※野焼き終了後	阿蘇神社～馬の背～山頂上宮までの古道	PT
令和5年 4月中()	支部行事として、会員(希望者)による 現地視察会(予定)	西巖殿寺修験道コース (黒川～阿蘇山頂広場) ※ 逆コース考慮	PT及び支部会員(希望者)

以下、写真を添付します。(次 葉)



道路脇に集められた石碑（古坊中）



馬の背を望む



夏目漱石の文学碑石柱



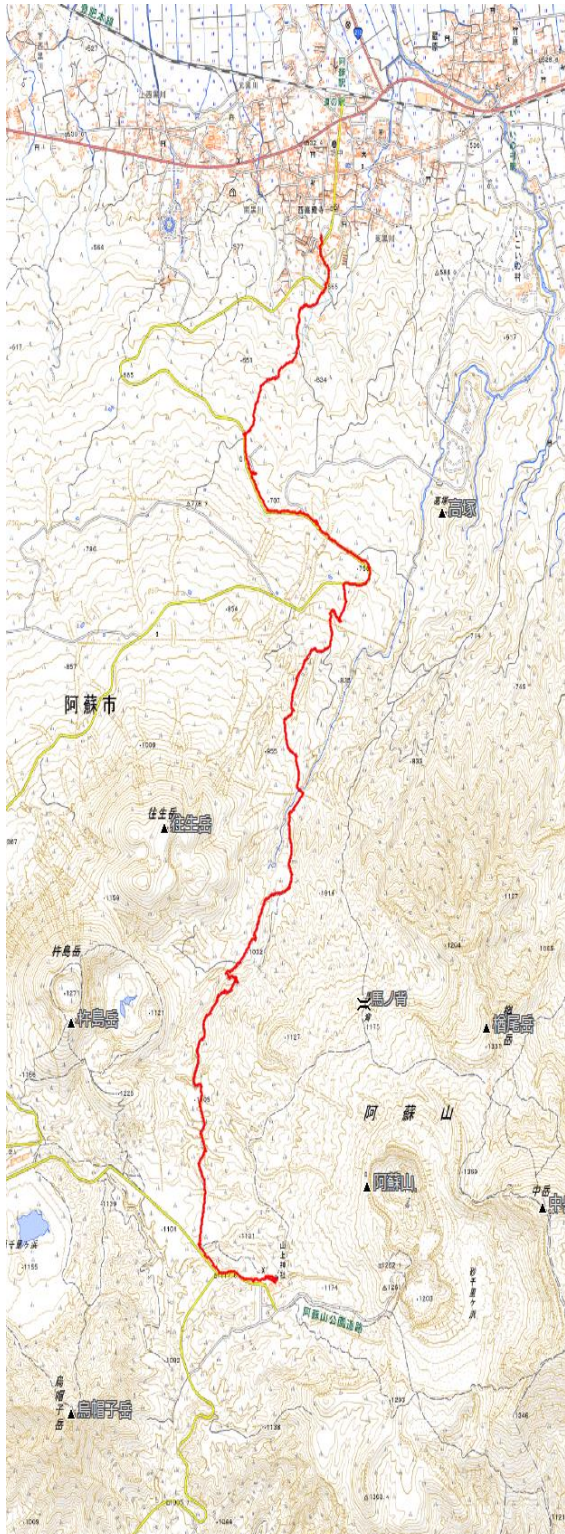
古道（現在は黒川牧野道）



古道道標



麓坊中西巖殿寺跡地到着



平成4年9月12日

阿蘇山岳古道修験者の道

5名で現地調査 ゆっくり歩き約4時間

GPS 奇跡マップ 中林様作成

10 森林保全巡視報告書提出状

1件 平成4年10月26日付

祖母山 千々岩泰子

別紙にて報告

11 会員の異動 事務局 山本直

新会友 川上春枝 大田黒 司

編集後記

昨秋は新型コロナウイルス第7波がなんとか下火になった時期で、近場の日帰り登山中心になんとか行事ができました。最近になり第8波の影響が心配される状況となって参りました。

皆さんが提出される報告書には写真をいっぱい貼り付けてこられ、写真好きの私は喜んでおります。また、歩いたコースを最近ではGPS、スマホを活用して軌跡を残される方が多いようですが、その軌跡も登山報告書に含めると、歩いたコースがより明確にわかるので有効ではないかと思っております。

なお、今号では特に、現在3ルート of 山岳古道を調査中でありますので、調査の途中経過を掲載することにいたしました。

山岳会の行事とは別に、皆様個人山行で登られている方も多いかと思いますが、登山の報告・諸処の随想などお寄せいただければありがたいです。また、個人的な体験談など寄稿いただければありがたいと思います。

よい会報になるように努めて参りたいと思っております。宜しく願いいたします。

田北 芳博

Eメール yt19-57@tune.ocn.ne.jp

☎ 田北 09087611471.

